

## 衛星運用における民間活力の現状に関する懇談のポイント

次期気象衛星の検討に際しては、民間における静止衛星の整備・運用のノウハウの蓄積を踏まえ、民間活力の活用の可能性という新たな視点を含めた多角的な検討を行っていくことが重要。

このため、以下の視点のもと、民間通信衛星事業者の現状等について把握し、次期静止気象衛星に関する民間活力の活用の可能性を探っていく必要がある。

### <検討のポイント>

- ① 民間による衛星運用の可能性
  - 経験実績、危機管理体制、他者の衛星の運用受託の状況など
  - 民間が次期静止気象衛星の運用を行う場合の留意事項など
- ② 民間衛星事業との相乗りの可能性
  - メリット・デメリット
  - 相乗りを検討する場合の留意事項など